

2015年11月11日 Project Next-L

Project Next-L、オープンソース図書館システム 「Next-L Enju」の新バージョンを提供開始

図書館に関わる人々の自らの手で新しい図書館管理システムを作りあげることを目指すプロジェクトである Project Next-L は、オープンソースの図書館システムである Next-L Enju の最新バージョンである Ver 1.1 の提供を本日 11 月 11 日 (水) より開始いたします。

2011 年 11 月に Ver 1.0 をリリースした Next-L Enju は、国立国会図書館の提供する NDL サーチのベースシステムのひとつとして採用されるとともに、専門図書館を中心とした 10 をこえる図書館でご使用いただいております。また、大学の研究室や個人で図書管理をされている方々も数多くいらっしゃいます。

Next-L Enju を日本で最初のオープンソース統合図書館システムとして公開して以後、国立国会図書館が提供する書誌データの利用拡大、図書や読書に関わる Web サービスの多様化、ソーシャルメディアの台頭など、図書館システムに求められる役割も、より高度で複雑なものとなっています。

「Next-L Enju Ver 1.1」は、こうした状況を踏まえ、また既に Next-L Enju を導入されている皆様からのご意見・ご要望もいただきながら、新機能の追加をはじめ、操作方法の改善、柔軟な出力項目の設定、処理速度の改善など 150 点におよぶ(※)機能追加・強化を行いました。また、より安定的に Next-L Enju を利用いただけるよう、数多くのテストも行い 300 箇所以上に渡るバグフィックスも行いました。

さらに、システムに詳しくない方でも導入の検討をいただけるようにマニュアル類を全面的に見直して整備するとともに、Next-L Enju の標準的なシステムおよびすぐに使える設定データをパッケージングしたセットもご提供いたします。これにより、たとえば Windows や Linux などが動作しているマシンがあれば簡単に利用いただけるようになっています。

※ 前バージョン「Next-L Enju Ver 1.0」からの追加・強化機能

【「Next-L Enju Ver 1.1」における主な追加・強化機能】

■ 新規機能・機能強化

- 書誌情報・利用者情報の入出力機能を大幅に強化。全件を対象とした処理も可能に
- 利用者情報管理機能の大幅強化。利用者情報を別システムで管理し個人情報管理能力が大幅向上
- 統計機能の大幅強化。本棚ごとの統計も可能に など

■ 操作性および表示内容の高度化

- 検索条件の詳細指定、表示内容の細かな指定機能
- 出力項目の追加、ファセット表示項目の追加 など

■ 処理機能の向上

- 検索結果の表示や、書誌所蔵の出力などにかかる時間を大幅に短縮
- クラウド環境に対する対応力の向上。Amazon S3 などに対応 など

■ システムの信頼性向上

- モジュール結合テスト機能などを追加し、開発時のバグを低減 など



【「Next-L Enju Ver 1.1 について」】

Next-L Enju は、Project Next-L での議論を元の実装を行っている統合図書館システムです。オープンソース・ソフトウェアとして公開され、誰でも自由に無償で利用することができます。

Next-L Enju は、図書の発注から受け入れ、書誌データの管理、資料の貸出・返却・予約、図書館 OPAC まで図書館の全ての活動に対応した機能を備えています。Excel などにリストアップした ISBN を元に多数の書誌データを国立国会図書館から一括取得する機能や、別システムと連動して利用者データを管理できる機能などを持ち、最低限の個人情報だけで図書館システムを運用する仕組み、Web ページやデジタルアーカイブなどを図書館資料とあわせて検索する機能を備えております。効果的な図書館業務のサポートを実現できるに十分な機能を有するだけでなく、書影の表示やファセット機能を備えるなど図書館 OPAC に関する最新で多様な仕組みも備えています。さらに、どのような画面設計とするか、どのような統計データを作成するかなどについても自由に設計が可能であり、柔軟な仕様変更に対応することが可能です。

Next-L Enju は、2011 年 11 月の公開以来、国立国会図書館の NDL サーチや科学技術振興機構(JST)のシステムのベースシステムのひとつとして採用されるとともに、物質材料研究機構、環境省、気象庁などの研究所や中央官庁の図書館、笹川スポーツ財団、三菱史料館のような団体、さらに大学図書館や公共図書館で利用されてきております

動作環境としても、各図書館・期間のシステム環境や今後の計画に合わせて、クラウド型 (SaaS 方式) でもサーバインストール型でも利用可能です。また、小さな組織や個人で使われる場合には現在動作している Windows などの上で仮想マシンとして実行可能であるなど、規模に関わらず様々な環境でご検討いただくことが可能です。

【「Project Next-L について」】

実際に図書館現場に導入される可能性を持ち、日本の図書館システムを変えていくことができる可能性を持つシステムを開発したいという思いを持つ人々を中心に、国内でオープンソースによる図書館システムの設計、開発を行い、全国に普及を図ることを目的として 2006 年から活動を続けてきた団体です。

図書館員、図書館情報学研究者、図書館の利用者など、さまざまな人々が集まって図書館システムに関する意見交換を行い、その成果をまとめるとともに、実際の図書館現場で利用可能な実用システムである Next-L Enju を開発してオープンソース・ソフトウェアとして公開するとともに、その普及と改良を行っています。

■本件に関するお問い合わせ：

Project Next-L

Mail : info@next-l.jp Web : <http://www.next-l.jp>